

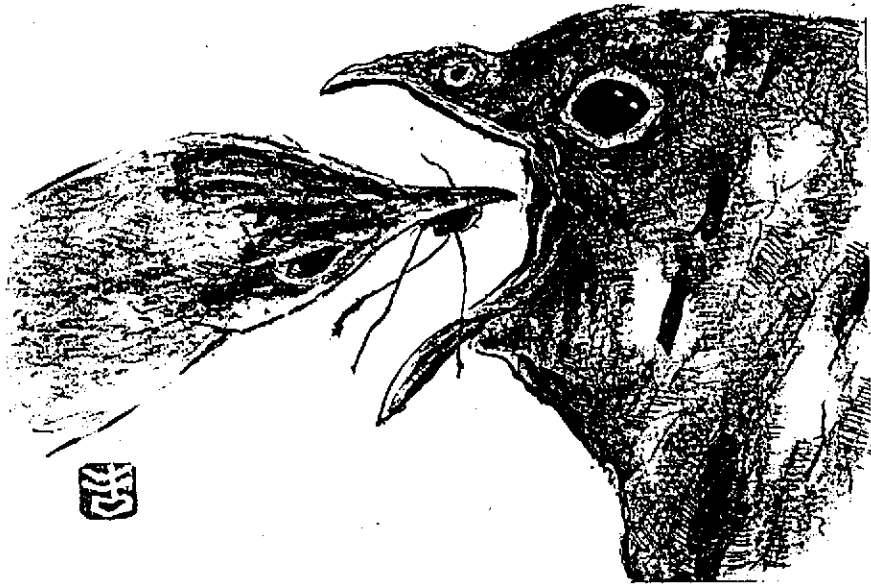
ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 130

1996年

5～6月号



仮親から餌をもらうカッコウのひな 吉武勝平

◇ 行 事 案 内

第7回バードウィーク手賀沼探鳥会

期 日 5月12日(日) 雨天時は19日
集 合 我孫子市役所前 午前8時半
解 散 正午ごろ

鳥の博物館、山階鳥研と当会共催の恒例の市民探鳥会です。コースは市役所を出発、鳥博前の道路を東へ、瀧前不動手前で遊歩道に出て西進、終わりは鳥研です。(全行程徒歩)

当会は、一般参加者の観察案内と安全確保を担当します。そのため多数のご協力が必要です。人員集約のためお手伝いくださる方は

西巻まで電話をください。(TEL 84-7809)

なお、市への申込み、当日の受付への出頭、参加費など会員は一切不要です。集合時刻も一般参加者と違います。注意してください。

幹 事 会

期 日 5月12日 13:30～
市民探鳥会の午後 雨天実施
場 所 我孫子市民会館 第2会議室
議 題 行事予定。その他。

市民探鳥会でお疲れのところ恐縮ですが、ご参集ください。なお、この予告以外特別の案内をいたしません。幹事はお忘れなくご出席ください。

野鳥と緑の宝庫・戸隠のバーディングツアー

期 日 6月1日(土)～2日(日)
集 合 我孫子中央公民館 午前8時
宿 舎 メルヘンヒュッテ (0262-54-2081)
長野県上水内郡戸隠村越水ヶ原
交 通 今井観光のバス利用
費 用 1人22,000円位 (一旦集合時この額
で集金します) 宿泊・高速・保険代
申 込 飯泉 (0471-75-6017) 定員20名
申込の方に詳細の案内を送ります。
案 内 長野県戸隠高原は標高1,000m付近に
広がり、古くから野鳥の大コース
を楽しむことができる場所です。
サンショウクイ、コルリ、クロツグ
ミ、アカハラ、センダイムシクイ、
キビタキ、コジュウカラ、ノジコ、
アオジ、およびクロジ等を期待。
担 当 飯泉仁・久美子、首藤佑吉・美恵子
染谷迪夫、梅村康之

手賀沼探鳥会とカウント

期 日 6月9日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 ダイ・チュウ・コサギに加えてアマ
サギ、ゴイサギとサギをじっくり観
察しましょう。空にはサシバが姿を
みせるでしょう。
正午頃解散
午後は情報交換会に御出席下さい。
担 当 木村、小池、染谷、畑

第二回情報交換会

期 日 6月9日(日) 午後1時30分
場 所 親水広場、水の館3階会議室
テ-マ 「トケンの仲間の託卵」
ホトトギス科の鳥の託卵と鳴かない
時の見分け方について。

又その他鳥情報の交換を含めいろ
ろ鳥の話を用意しています。

6月、手賀沼ではオオヨシキリが繁殖してい
ます。オオヨシキリはトケンの仲間の託卵の
相手とされています。トケンの仲間は託卵す
る相手としてどのような鳥を選んでいるので
しょうか。興味ある所です。

小見川・笹川 探鳥会

期 日 6月23日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前8時
交 通 自家用車分乗
便乗者負担 1人¥1000
持ち物 昼食、雨具
案 内 コヨシキリ、オオヨシキリ、コジュ
リン、セツカ、等々又ここは日本で
はめずらしいオオセツカの繁殖地で
も有名です。
申 込 小玉 ☎ 0471-83-5783
車の提供又は便乗希望かを伝えて下
さい。
担 当 小玉、西巻、首藤

◎ 行 事 報 告

○真岡市井頭公園探鳥会に参加して

(1月28日) 阿部隆次

本日の、探鳥会は22人が車5台に分乗し
市役所前を八時十分に出発、一路ふれあい道
路を真直ぐに進み国道294号線に出て田園
風景の中を過ぎ、左側に石下のお城を見なが
ら更に宇都宮方面へ進む事、約2時間で井頭
公園に到着いたしました。早速、公園の池場
へ下りて行くと池の表面はまだ結氷していて、
沢山のカモ達が羽を休めていました。
マガモの頭部の緑色、コガモの目の横の深い
緑色が光線の具合か、一段と美しく光ってい
たこと、又ヨシガモの尾の部分が白黒のアー

チ型を描いていたり、トモエガモの頬の部分のトモエ紋風の模様が美しかった事、1つがいのみコアイサがその白さを一段と増して愛くるしく泳いでいたのが非常に印象的でありました。池のほとりを進むと多数のコガモが妙に落ち着きがなく飛び立ったり下りたりを繰り返して居ました、不思議な事にマガモも沢山居たのですが飛び立つのはコガモの群れだけである、どうして自分たちの仲間だけが判るのだろうか考えると不思議である。こう言う時は上空にワシ、タカを疑えと教えていただいたが上空にはそれらしき姿は見られなかった、道すがらシロハラ、エナガが確認されました、食事もそこそこに又、行動を開始したところで、やや薄暗い林のなかにルリビタキの雌を一羽確認しました。更に進むと突然双眼鏡の中に赤ゲラが見えたのにはびっくりしました、そのあと青ゲラ、木の下で草むらで餌をついばむ多数のビンズイ、池のほとりではジョウビタキが一羽さえずっていました。それにしても、午前中は鴨類のオンパレードで午後からは珍しい鳥が見られ、私にとって初めての遠出の探鳥会参加は、リーダーの方々の御指導のおかげで楽しく実のある一日と成り、本当にありがとうございました。又の機会を楽しみにしておりますのでよろしくお願い致します。

<参加者>

阿部隆次・理恵子、向井章雄、染谷迪夫、西巻 実、田丸喜昭・メリールイス、松本庸夫、中 弘・迪子、首藤佑吉・美恵子、牧野陽子、立川節子、高橋敏夫、高橋敏彦、佐久間俊行、小玉文夫、猪爪敏夫、武藤康之、梅村康之、小島経一、木村 稔・正子、以上24名

<認めた鳥>

カイツブリ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、コブハクチョウ、ワシタカSP、

キジバト、カワセミ、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジョウカラ、ヒガラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、以上47種

♡井頭公園でみつけた！

首藤美恵子

淡緑色をした“まゆ”を林の中でみつけました。二つともヤママユ科のものです。

①はウスタビガのまゆ

雄は赤褐色だが雌は黄色のものが多く。

幼虫は体を縮める時キーという音を発する。

食性：クリ、ナラ、エノキ、カエデ等

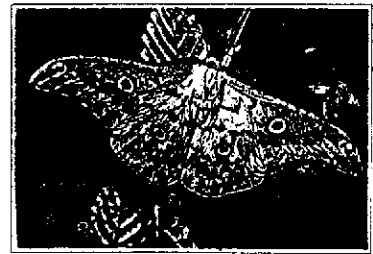
②はヤママユのまゆ

淡緑色のまゆを山藨とよび絹糸をとるために飼育する地方もある。

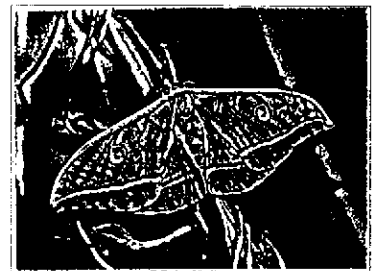
食性：クヌギ、カシワ、リンゴ等

以上 フィールド図鑑 昆虫

矢島 稔、佐藤有恒 著より



①ウスタビガ ♂



②ヤママユ ♀

○手賀沼カウント

調査日時 1996年2月11日
 晴れ9:30~12:10

<カウント班>飯泉 仁・久美子、以上
 2名

<探鳥班>染谷迪夫、赤尾 完、瀬下猛
 男、小池 忠、宮下三禮、高島紀子、佐
 久間俊行、関谷義男、近藤信也・歩・希
 鈴木かね子、梅村康之、今野公美子、福
 里美加、中 弘、大久保陸夫、向井章雄
 野口幸子、鈴木房子、間野吉幸、左近史
 子、坂巻宗男・道代、渡辺千鶴子、関谷
 元吉・圭美、山口達雄、猪爪敏夫、武藤
 康之、村井 治・登代、田丸喜昭・メリ
 ールイス、西巻 実、原純一、高橋敏彦
 川村 新、諸田陽子、首藤佑吉、志賀鉄
 雄、松田幸保、加藤文夫・洋子、木村稔
 以上45名 合計47名

鳥 種	上 沼	下 沼	計
カイツブリ	25	33	58
カワウ	50	18	68
ダイサギ	1	0	1
コサギ	4	2	6
アオサギ	24	13	37
ゴハクチョウ	0	2	2
マガモ	4	151	155
カルガモ	68	140	208
コガモ	23	120	143
オカヨシガモ	87	5	92
オナガガモ	13	70	83
ハシビロガモ	68	326	394
ホシハジロ	1	50	51
キョウバク	1	1	2
ミコアイサ	8	37	45
アイガモ	0	3	3

バン	6	1	7
オオバン	91	51	142
シロチドリ	1	0	1
タゲリ	1	0	1
ユリカモメ	32	28	60
セグロカモメ	5	1	6
計22種	513	1,052	1,565

<他に認めた鳥>チョウゲンボウ、キジ、キ
 ジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセ
 キレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、
 モズ、シロハラ、ツグミ、トラツグミ、
 ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、
 アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カ
 ケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガ
 ラス、オオジュリン、以上27種合計49種

○情報交換会の再開について

(2月11日) 染谷迪夫

前号の129号でもお知らせ致しましたが、
 しばらく中断していました情報交換会を再開
 いたしました。今までは原則として土曜日夕
 方5時頃より1~2時間、参加者はそれぞれ
 好きな食物飲物を持ち寄ってシ酉の会(ミズト
 リの会)等と称して鳥の話や雑談等しており
 ましたが、時間、都合、場所等うまく折合
 がつかず開催されないまま現在に至っていま
 した。せっかく情報交換会を発足させ月1回
 の定例探鳥会だけでなく皆さんと意見の交換
 をしようと企画されたわけですからこのまま
 尻切れトンボにはもったいないと幹事会
 より提案があり再開された次第です。気軽に
 集っていただいて、探鳥会とは別な意味での
 交流ができたならと思っています。再開第一
 回は前号にものったように「鳥のさえずり」
 という事で小鳥の声を録音したテープを聞いて、
 探鳥の際に出会う鳥達を声の側から理解し
 ようと実施されました。飯泉副会長の指導で

手賀沼周辺にいる水鳥や野山の鳥の代表的な鳥の声を録音したテープを聞きました。スズメからヒガラまで46種類の声がCDより流れて、探鳥会で出会う鳥達の声の聞こえと更に鳥達への親しみが増したように思えました。

(実はCDの操作がスムーズでなく再開第一回目として皆様迷惑をおかけして申しわけないと反省しています。)夏になりますと野山では葉が繁って小鳥の姿が見えにくくなります。声だけの探鳥をよぎなくされることも多いものです。声を聞いて鳥達が居るという事を確認したり理解するのも探鳥の楽しみの一つではないかと思えます。今後情報交換会を通して鳥やその外、知識を広めることは楽しい事ではないでしょうか。テープを聞いた後、雑談になりましたが、高橋元会長の我孫子野鳥を守る会や日本野鳥の会の発足当時の貴重なお話をお聞かせいただき大変有意義な時間を過ごさせていただきました。皆様も参加すると楽しい時間を過ごせること請け合いです。

<参加者>西巻実、志賀鉄雄、向井章雄、梅村康之、田丸喜昭、田丸メリールイス、間野吉幸、赤尾完、松本庸夫、村井治・登代、染谷迪夫、飯泉仁・久美子、木村稔、松田幸保、野口幸子、諸田陽子、首藤佑吉、高橋敏夫、鈴木房子、高橋敏彦、坂巻宗雄(以上23名)

○早春の高尾山に赤い鳥を探す会

(2月25日) 飯泉 仁

明治の森高尾国定公園の中心地である高尾山は、古くから聖地として保護されてきたところです。山裾のあたりはスギなどの植林が目立つものの、山稜部はモミ林で山全体には落葉・常緑広葉樹が残されています。今回の探鳥会は、ケーブルカー霞台山七駅の北側の自然研究路2号路・4号路のブナ・イヌブナの芽を食べにくるウソやマシコ類に出会えたらと思って出かけました。しかしながら、自

然研究路の補修工事と積雪の関係で通行止めとなっていたため、やむを得ず1号路から薬王院を経由し山頂へ向う研究路の散策となりました。

春・イカルが早くも囀る

高尾山山上駅から薬王院に向って路の途中動植物園の近くにきたときです。「キーコーキー」とイカルの囀りがはっきり聞こえました。手に取るようによく聞こえました。

「この前の囀りのセミナーで聞いたCD通りですね、でも自然の中で聞く声が一番」と皆さんから感想が口をついて出ました。

鳥あわせ・ルリビタキ出現

薬王院から山頂までの間を散策したあとおりかえして1号路の金比羅台の手前までを散策してみました。さすがに、薬王院から山頂に至る路は雪があり、標高600mの山を感じさせてくれました。但し、鳥影は少なくちょっとくたびれたというのが参加者の皆さんの実感でしょう。午後3時すぎに山上駅の近くで鳥あわせをしているときでした。東側の斜面に声も出さずに動いている鳥がいました。双眼鏡でよく観察してみると腰から尾にかけてのコバルトブルーが綺麗なルリビタキです。冬期のルリビタキは1羽毎に縄張りをもって生活するとされています(浜口 1991)ので彼?彼女?にしてみれば、我々はまさに侵入者なのでしょう。

引用文献

浜口哲一、1991、野鳥、P298

(樺山と溪谷社)

<認めた鳥>

ノスリ、キジバト、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ツグミ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル、スズメ、ム

クドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス
(計22種)

<参加者>

向井章雄、西巻実、猪爪敏夫、小玉文夫、村井治・登代、関谷元吉・圭美、梅村康之、川村新・知也、國安テル子、木幡静子、瀬下猛男・映、染谷迪夫、佐久間俊行、松田幸保、飯泉 仁・久美子、武藤康之 21名

○手賀沼カウント

調査日時	1996年3月10日 晴れ 9:20~12:00
<カウント班>	飯泉 仁・久美子以上 2名
<探鳥班>	染谷迪夫、梅村康之、小池忠、大塚金久・和子、川端英雄、佐久間俊行、近藤信也・希・歩、工藤泰恵、宮下三禮、中 弘、野口幸子、國安テル子、鈴木房子、大久保陸夫、猪爪敏夫、武藤康之、村井 治・登代、瀬下猛男、高島紀子、関谷元吉・圭美、間野吉幸、坂巻純子、坂巻宗男、西巻 実、橋本 清、木村 稔、山口達雄、鈴木かね子、田丸喜昭・メリールイス、赤尾 完・弥生、諸田陽子、阿部孝次・理恵子、折原淳二、首藤佑吉・美恵子、原 純一、吉池みち高橋敏彦、以上46名 合計48名

鳥 種	上 沼	下 沼	計
カイツブリ	3	3	6
カワウ	10	33	43
ダイサギ	2	1	3
チュウサギ	0	1	1
コサギ	3	8	11
アオサギ	19	10	29
コノハチヨウ	0	3	3

マガモ	9	107	116
カルガモ	32	96	128
コガモ	38	56	94
オカヨシガモ	20	0	20
オナガガモ	20	82	102
ハシビロガモ	66	367	433
ホシハジロ	0	20	20
キョウバク	0	1	1
バン	1	0	1
オオバン	96	53	149
コチドリ	1	0	1
シロチドリ	1	0	1
タゲリ	1	0	1
ユリカモメ	29	8	37
セグロカモメ	5	0	5
計22種	356	849	1,205

<他に認めた鳥>チョウゲンボウ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、以上22種合計44種

○波崎にて

(3月20日)

首藤佑吉

波崎の海岸に降り立った我々を迎えたのは凄まじい烈風であった。

沖合いから猛然と吹き寄せ、乾いた砂を巻き上げ真正面から我々を襲う、とにかく寒い。ここでの探鳥のお目当てはミヤコドリであるが、鳥を探すより寒さを避けるのが当面の急務に思われた。看板のかげで風を防ぎながらプロミナーで波打ち際を覗くとミユビシギの一群が例の小走りで波と戯れているの見える。

木村会長が単独でミヤコドリ探索に出かけら

れた。10分程で戻ってこられ「いないよ」と報告された。

港の方に移動する。外海が荒れているせいか堤防で囲まれた港内に鳥達が集まっている。

1羽の黒っぽい鳥影を鵜かアビかと確認しているうちに、ふいに翔び立った。

後姿の腰が白い。「ヤヤッ、チシマウガラス!」数人が騒然となる。「まあ、まあ」と誰かに宥められて冷静に図鑑と比較検討した結果、ただのヒメウと判定された。

ここでの演し物はハジロカイツブリのシンクロナイズドスイミングであった。一群約60羽が一斉に潜り、一斉に水面に顔をだす。何度も繰り返すがタイミングを乱す者は一羽もない。彼等の漁法の一つと思われるが、水面下の彼等の行動を覗いてみたいものである。最後に魚市場近くの公園の前にある水路に立ち寄った。あいかわらず風が強く寒い。

義理半分、なげやりな気持ちで水路の対岸を覗いたが、忽ちその目は釘付けになった。

黒い羽、オレンジのくちばし、ピンクの脚、背中に通った一本の白い縦線、まぎれもなくミヤコドリであった。間隔を保って3羽が水際に並んでいる。体長や色艶に若干の固体差があるが、内1羽のくちばしはプラスチックのような透明感をもってオレンジ色に光り輝き、その鮮やかさはしばしば我々を魅了した。ミヤコドリから目を転ずると、そこには夏化粧に近いカンムリカイツブリとアカエリカイツブリの番いが遊泳中であり、これまた十分に楽しませてくれる。

風も寒さもなんのその。2時間ほども観察を続けたであろうか、全員の顔に満足感がうかんだ。

苦あれば楽あり。風と寒さで当初は先行きが危惧された探鳥会であったが、我慢のあとに素晴らしい鳥運が待っていたのだ。

<参加者>

木村 稔、大塚金久・和子、首藤佑吉・美恵子、向井章雄、西巻 実、瀬下猛男、中 弘、

島崎純造、小玉文夫・信子、赤尾 完、大久保陸夫、梅村康之、佐久間俊行、関谷元吉、飯泉 仁・久美子、以上19名

<認めた鳥>

カイツブリ、ハジロカイツブリ、アカエリカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ヒメウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、スズガモ、シノリガモ、オカヨシガモ、トビ、ミヤコドリ、シロチドリ、ミュビシギ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、カモメ、ウミネコ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、イソヒヨドリ、ウグイス、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、アオジ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、以上47種

○ 喜寿を迎えて

吉武勝平

遠い先のことと思っただが、何時の間にか馬齢を重ねて喜寿となった。

振り返ってみると、何にでも興味を抱く性格で登山、尺八、ヴァイオリン、謡曲、盆栽等を手掛け、リタイア後は健康維持のために太極拳を習い、絵画に没頭、手作り絵本、版画、似顔絵、篆刻、彫塑、陶芸等に夫々半年以上先生について習った。野鳥の会も最近は御無沙汰してあるが、速くから関心を持ち、鳥に関する絵が多い。

大分前に野鳥の会で同行した赤城山の霧の覚満洲で構想を練った『春深し』と題した絵、ヴェネチアの都鳥、スペインのコウノトリ、北歐のフィヨルドの三趾鷗等にして鳥をモチーフとしたイメージ画である。これもみな野鳥の会で鳥を教えて頂き好きになった賜物である。最近はスケッチブックをポケットに散歩をしている。

ピアノを始めて八年五ヶ月、小学校三年生位実力もその程度。只今「ソナチネ」で苦闘中。

初め孫のピアノを使ってゐたが、古稀を前に一念発起してマイピアノをアトリエに入れた。

明日は先生が来て下さる日。今日は残業になるかも知れぬ。レッスンに追はれる毎日何とも楽しい、何とも忙しい。

『喜寿迎え 今年こそはと 初稽古』

先日「我孫子野鳥を守る会」の「ちば環境文化賞」受賞記念パーティーに参加させて頂いた折計らずも喜寿のお祝いに与かり、郭公の託卵の素晴らしいデコバージョンを頂戴した。予期しない事で驚き、嬉しかった。

一つこれにも挑戦してみようかな!!

軽井沢の12紅 再会記

飯泉 仁

96年3月2日～3日の間の2日間、長野県軽井沢町を訪ねました。正月に同地に足を運んだ際、ヤドリギの実がかなり目立ったのでこの冬はきっとレンジャク類と出会えるに違いないと思ひ込んででかけたのです。

1. 12紅 (じゅうにこう)

野鳥(1994)は、「江戸時代の図譜には12枚の尾羽の色に着目し、その色が黄色のキレンジャクを12黄、紅色のヒレンジャクを12紅と記している」としています。尾羽の枚数については、笹川(1995)がヒレンジャクの尾羽を12枚と示していますからなるほど特徴を端的に著している訳です。

2. 12紅 再会

正月にみかけたヤドリギの実の豊富な場所をていねいに訪ねることとしました。中軽井沢駅に近い長倉神社、野鳥の森の近くの別荘地などをていねいに見て歩きました。

午後2時すぎに星野温泉ホテルの東南にある

別荘地に足を運んだときのことでした。

「ヒーヒー」という声が近くでします。別荘の看板に「263江川」さんという別荘の北にあるヤドリギに23羽がとまりヤドリギの実をむさぼりついて食べていました。実に連なっているその様は「連雀」の名前の通りです。前項で示したような先端の赤い尾羽を堪能させてもらいました。

ヤドリギの実を食べたヒレンジャクはそのねばねばさが気になるのか、盛んに枝の木の皮にすりつけていました。糞を落としてヤドリギを広めるほかにこうやってヤドリギが増えてゆくんですね。

このヒレンジャクの群れは、雪がちらつきはじめた午後4時頃までの間このヤドリギの実に群がっていて、別荘地をおりて星野温泉の駐車場からも姿を観察することができました。軽井沢での久しぶりの再会に感謝。

3. 発見、“鳥見宿”

宿は、国道146号線沿いにあり、星野温泉ホテルの南西方向に位置するペンション ココット (TEL.0267-46-2311) にしました。東京で会社勤めをしていたオーナーが15年前にここにオープンし、ご自身も軽井沢へきて以来バードウォッチングをはじめたのだそうです。餌台のある庭(但し冬の間～3月一杯までの給餌)には、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ツグミ、ヒガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカおよびイカルが飛来し、2日の午後4時すぎには宿の上空をヤマセミも飛翔、3日の朝には前日の別荘地上空を飛翔してゆくレンジャクの群れも見ることができました。

野鳥の森および塩壺温泉までは徒歩約5分で、料金は1名9,000円(1泊2食)の宿です。部屋のまどやロビーから身近に鳥を観察でき、オーナーと鳥談義をかわすことができる“鳥見宿”です。

引用文献

笹川昭雄. 1995. 羽根図鑑. P192

世界文化社

野沢 久. 1994. レンジャクに魅せられて.

野鳥. 第59巻 第3号. P18

(助)日本野鳥の会

“ 鳥 だ よ り ”

- 01.01 〔柏市豊四季〕チョウゲンボウ(1) 上空でホバリングの後JR柏駅方面へ飛翔 飯泉 仁
- 01.01 〔東我孫子1〕ツグミ(1)、アオジ(2) カケス(2) 首藤佑吉・美恵子
- 01.01 〔岡発戸新田〕タゲリ(1)
- 01.01 〔沼南町フィッシングセンター〕チョウゲンボウ(1)、カワセミ(1)、カシラダカ(1)
- 01.01 〔湖北台東小斜面林〕コゲラ(1)、ハクセキレイ(2)、ビンズイ(2)、モズ(1♀)、シジュウカラ(2)、メジロ(2) アオジ(1) 以上 赤尾 完
- 01.01 〔上沼〕チョウゲンボウ、タゲリ(4)
- 01.02 〔下沼〕チョウゲンボウ、タゲリ
- 01.03 〔五本松公園〕コジュケイ
- 01.03 〔沼南町手賀の丘公園〕トラツグミ、シメ
- 01.03 〔上沼〕ベニスズメ(5)
- 01.03 〔下沼〕カンムリカイツブリ、スズガモ 以上 志賀鉄雄
- 01.03 〔中里市民の森〕コジュケイ(6)、キジ(3)♂若鳥、ハクセキレイ(2)、モズ(♂1♀1)、ツグミ(2)、ウグイス(3)笹鳴き、メジロ(6)、アオジ(6)カワラヒワ(10)、シメ(1)、カケス(1声) 赤尾 完
- 01.04 〔北新田〕オオタカ(幼)(1)水田上を低空で飛ぶ
- 01.04 〔同4号排水路〕イカルチドリ(1)、クサシギ(1)、イソシギ(1)、いずれも水路で採餌 以上 西巻 実
- 01.06 〔上沼〕ベニスズメ
- 01.07 〔上沼〕ベニスズメ
- 01.07 〔下沼〕ノスリ、チョウゲンボウ
- 01.11 〔沼南町大津ヶ丘〕ジョウビタキ 以上 志賀鉄雄
- 01.11 〔布施〕アカハラ(1)地面で採餌 西巻 実
- 01.12 〔柏有料橋入口上空〕チョウゲンボウ♂♀各1 松本克博
- 01.13 〔北新田〕シラコバト(1)飛ぶ、コミミズク(1)午後4時過ぎに飛び立つ 西巻 実
- 01.13 〔沼南町大島田〕ジョウビタキ(♀)、シロハラ 志賀鉄雄
- 01.14 〔高野山〕オオタカ(1)寿方面から沼南町箕輪方向へ飛翔 飯泉 仁
- 01.14 〔沼南町大津ヶ丘〕コゲラ(2)
- 01.15 〔同所〕コゲラ
- 01.15 〔下沼〕チョウゲンボウ、タゲリ(2) 以上 志賀鉄雄
- 01.19 〔柏市布施〕オオタカ(幼)(1)斜面林に
- 01.22 〔北新田〕オオジュリン(5)田で落ち穂を食べる 以上 西巻 実
- 01.24 〔天王台3〕シジュウカラ(1)囀り 首藤美恵子
- 01.25 〔江蔵地〕コミミズク(1)、カワセミ(1) 中根文世
- 01.28 〔上沼〕ミコアイサ(2)、シロチドリ(1)、セグロカモメ(2)
- 01.28 〔下沼〕カンムリカイツブリ(1)、ヨシガモ(♂2♀5)の群れ、ミコアイサ(65)、セグロカモメ(1)
- 01.28 〔沼南町泉村新田〕チョウゲンボウ(1)上空を飛ぶ
- 01.28 〔手賀の丘公園〕コサギ1羽の羽毛及び脚を残した残骸。また、カケス1羽の羽毛が散乱。いずれも猛禽に食べられたものと思われる。 以上 飯泉 仁・飯泉久美子

